科目ナンバリング	U-LAS04 20042 LJ32						
授業科目名<英訳>	ジェンダー論 Gender Studies			担当者所属職名・氏名	文学研究科　教授　　川島　隆		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

現代社会に生きる女性や男性は、その性別（ジェンダー）ゆえに、どのような問題に直面しているのだろうか。その現実に多面的に光を当てるとともに、その歴史的ルーツを探ることにより、日常の中でジェンダーにまつわる問題に気づき、課題解決のための実践ができるようになるための基礎的知識を身につけることをめざす。

性というものが生物学的にどのように位置づけられてきたか、文化的にどのような意味づけを施されてきたか、国や地域によって、あるいは時代によってどのように異なる価値観が支配的だったのかを知ることで、唯一絶対の「正しい」ジェンダーのあり方があるわけではないと知ることが、ジェンダーに関して柔軟な思考を展開するための第一歩となる。

この授業は基本的にオムニバス講義のかたちをとり、学内外からゲストスピーカーをお招きして、さまざまな研究分野においてジェンダーが開くパースペクティブを示していただく。生物学、社会学、法学、歴史学、文学など、多様な観点からジェンダーを考え、特に男性にとってジェンダー問題とはどのような意味をもつのかについても講義を充実させる予定である。

[到達目標]

（1）日常の中でジェンダーにまつわる問題に気づくことができるようになる。
（2）ジェンダーについて筋道立てて考えるための視角と基礎的知識を得る。
（3）現代日本のジェンダーを広い視野に位置づけて理解し、課題解決の方法についての見通しをもつ。

[授業計画と内容]

（ゲストスピーカーを調整中のため、仮に前年度のラインアップを示す）

1．導入
2．「父親育児」と「保育」の効果
3．女性の貧困
4．日本人の氏／姓／名字
5．文学に描かれた「ケア」の問題（1）
6．文学に描かれた「ケア」の問題（2）
7．医学の視点から考える性別とジェンダー
8．大学入試とジェンダー
9．男女共学の歴史
10．インターセクショナリティ
11．女性の労働と法的環境
12．お笑いと人権～お笑いにおけるジェンダー
13．性の多様性
14．まとめ
15．フィードバック

（ゲストスピーカーの都合により順序や内容が変更になる場合がある）

ジェンダー論(2)へ続く↓↓↓

ジェンダー論(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回提出する小レポート）により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）
http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/(これまでの年度の講義の公開動画を視聴できる。)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の後、１週間以内に小レポートを書いて提出する。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]